

平成26年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中での創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として整備され、陶芸館・信楽産業展示館・創作研修館の三つの施設を一体的に運営し県民の陶芸に対する親しみと理解を深める場である。これまで公益財団法人滋賀県陶芸の森が管理運営してきた中で蓄積した情報収集力や技術力、国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にし、地域性、国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

平成26年度は、当財団を取り巻く環境の変化を踏まえ、第Ⅱ期中期経営計画に基づき、目標達成に向け着実に事業を推進するとともに、公益財団法人としてのメリットを活かし、「陶芸の森やきもの振興基金」による財源確保に努めた。また滋賀県立陶芸の森開設25周年となる平成27年度にむけて、滋賀県の伝統文化である信楽焼の魅力を紹介し、陶芸の森の取り組みを発信する記念事業の企画準備を進めた。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理に努め、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

(1) 陶芸作品の野外設置

作品キャプション等を作り直し、作品の保全に努めた。

(2) 窯の広場の充実

穴窯をはじめとする7基の薪窯で陶芸家のモチベーションをあげることができた。「しがらき学ノススメ！」では講座のバリエーションを増やし、また来園者には活きた薪窯を見てもらい、陶芸の森らしい園内散策のポイントとした。

(3) 火鉢ロードの充実

昭和の時代に信楽焼の主力製品であった各種の火鉢を植木鉢として再利用し、来園者に楽しんでもらうために植栽管理に努めた。

(4) 花咲く太陽の広場

太陽の広場から陶芸館にかけての斜面の桜の手入れや草花を植えて景観の向上に努めた。

(5) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し、信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用してもらった。

(6) ボランティア活動推進事業

平成26年度ボランティア登録数 33人

- ・ 展覧会解説 15人
- ・ 子どもやきもの交流事業 18人
- ・ 展覧会関連イベント 6人

・園芸活動	8人	
・園内案内	2人	
・研修会	16人	
・見学会（大阪歴史博物館）	6人	計 延べ71人

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

滋賀県南部地域の観光拠点である陶芸の森へ多くのやきものファンや観光客に来園してもらい、信楽をよりよく知ってもらうよう各種講座や陶器市など様々なレクリエーションイベントを開催した。

(1) しがらき体験・しがらき学ノススメ

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるよう、技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げて陶芸制作講座を開催した。団体向けにも目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図った。

ア. 実技講座シリーズ

(ア) 手びねりでうつわをつくろう！「食のうつわをつくる」

＜開催日＞6月1日（日） 講師：細川政己 （参加者：6人）

普段づかいのできる食器、片口、小鉢、茶碗など自由に作陶し、作品は希望する釉薬をかけ焼成した。

・手びねりでうつわをつくろう！「雛人形、動物の置物をつくる」

＜開催日＞12月7日（日） 講師：田中南央 （参加者：12人）

手びねりで雛人形、動物の置物などを制作した。

(イ) 「技法別講座 ミニ窯をつくろう！」

＜開催日＞10月5日（日） 講師：小牧鉄平 （参加者：17人）

手びねりでぐい呑み数個焼くことが出来るミニ窯を制作した。乾燥後素焼きをし、木炭を燃料にしたミニ窯の焼成体験をおこなった。

(ウ) 技法別講座 ラク焼講座（「茶碗をつくろう！」）

＜開催日＞5月18日（日） 講師：川寄貴生 （参加者：16人）

＜開催日＞3月8日（日） 講師：奥田英山 （参加者：28人）

ラク焼の茶碗を制作した。後日、赤ラク、黒ラクなどで焼成した。

(エ) 技法別講座 イッテコイ窯焼成講座

＜開催日＞9月7日（日） 講師：石山哲也 （参加者：18人）

手びねりで食器、茶碗、花器など自由に作陶し、後日、イッテコイ窯（灯油薪併用窯）で焼成した。

(オ) 技法別講座 上絵付けに挑戦！

＜開催日＞6月29日（日） 講師：渡部味和子 （参加者：14人）

磁器のお皿に上絵付けを行った。運筆や絵付け技術の習得も同時に行った。

(カ) 技法別講座 練り込み技法でうつわをつくろう！

＜開催日＞6月15日（日） 講師：村田 彩 （参加者：14人）

練り込みの技法を基本から学んだ。石膏型を使用し、皿・鉢などのうつわを制作した。

イ. 穴窯体験講座の開催

・穴窯講座（初級向け）－自由制作

＜開催日＞7月13日（日） 講師：大西左朗 （参加者：15人）

2kgの粘土を使用し食器、茶碗など自由に作陶し、後日、穴窯で焼成した。

- ・穴窯講座（上級向け）一大壺をつくる
 <開催日>8月16日（土）・17日（日） 講師：篠原 希 （参加者：11人）
 12kgの粘土を使用し大壺を2日間にわたって制作し、後日、穴窯で焼成した。
- ・穴窯講座（中級向け）一花入をつくる（台風13号接近で中止となった8/10の講座を同時開催）
 <開催日>8月24日（日） 講師：高橋楽斎 （参加者：初級3人、中級5人）
 初級は2kgの粘土を使用し食器、茶碗など自由に作陶した。中級は5kgの粘土を使用し、花入などを制作し、後日、穴窯で焼成した。

ウ. 穴窯焼成クラスの開催

- <開催日>説明会10月5日（日）
 焼成日3月18日（水）～22日（日）
 窯出し3月29日（日） （参加者：11人）
 30kgの粘土を使い、自由に制作した。また、穴窯の窯詰めから焼成までを体験した。

エ. スイッチバックキルン焼成クラスの開催

- <開催日>説明会5月11日（日）
 焼成日7月8日（火）～12日（土）
 窯出し7月20日（日） （参加者：15人）
 30kgの粘土を使い、自由に制作した。また、スイッチバックキルンの窯詰めから焼成までを体験した。

オ. 登り窯講座

- ・上級向け 一大壺をつくる
 <開催日>10月25日（土）・26日（日） 講師：神崎継春 （参加者：13人）
 陶芸家の指導のもと、12kgの粘土を使用し大壺を2日間にわたって制作した。作品は後日、登り窯の火袋で焼成した。
- ・初級向け 一干支をつくる
 <開催日>11月9日（日） 講師：八幡 満 （参加者：6人）
 陶芸家の指導のもと、平成27年の干支の未の置物を制作した。作品は後日、登り窯で焼成した。
- ・中級向け 一蹲壺をつくる
 <開催日>11月23日（日） 講師：六代 上田直方 （参加者：12人）
 陶芸家の指導のもと、蹲や花入などを作陶した。作品は後日、登り窯で焼成した。

カ. 登り窯 釉薬講座（三大名産地の土を使って器三種をつくる）

陶芸館特別展「やきものって何ダ」関連企画

- <開催日>11月30日（日） 講師：神山直彦 （参加者：25人）
 萩・丹波・信楽の土三種類を使用し、食器・茶碗など自由に作陶した。作品は後日、登り窯で焼成した。

○しがらき学団体随時受け入れ

- ・個別講座「手びねりでうつわをつくろう！」（株PHP 研究所）
 <開催日>11月29日（土） 講師：橋功一郎 （参加者：50人）
 手びねりで、器・動物の置物などを制作した。
- ・個別講座「手びねりでうつわをつくろう！」
 KAKEHASHI-Project -The Bridge for Tomorrow-（北米地域との青少年交流事業：外務省）
 <開催日>3月12日（木） 講師：滞在中のスタジオ・アーティスト （参加者：8人）

(2) イベントの開催・誘致

陶芸の森を舞台に軽スポーツ、芸能、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的なイベント等の誘致に努めた。特に春・秋の連休には陶器市を開催した。

ア. 第8回 信楽作家市 in 陶芸の森

＜開催日＞5月2日（金）～5日（月）

＜主催＞しがらき作家市実行委員会

テント 85張（昨年度：74張）

出展者 約160人（昨年度：約140人）

来園者 23,988人（昨年度：22,951人／4日間 対前年度比約5%増）

実行委員会形式により開催した。陶芸関係者には来園者の多いゴールデンウィーク中に陶器販売の機会を、また来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供し好評を得た。

イ. 第19回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森

＜開催日＞10月11日（土）～12日（日）（2日間） *10/13は台風19号接近のため中止

ブース数 160件（昨年度：148件）

テント数 72張（昨年度：74張）

出展者数 約120人（昨年度：約150人）

来園者数 15,498人（昨年度：24,108人／2日間 対前年度比約36%減）

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸家を中心とする工芸家が、自らつくった質の高い作品を販売する「作り手と使い手の出会いの場」として開催した。

ウ. わくわくウォーキング in 陶芸の森

＜開催日＞12月14日（日）（参加者：35人）

＜協力＞ぼぼんた倶楽部（総合型地域スポーツクラブ）

陶芸の森の園内および周辺散策路を有効活用し、ウォーキングを通して園内の豊かな自然を満喫できる機会を提供した。また、野外に設置された数々の陶芸作品の鑑賞やニュースポーツ体験の実施など、幅広い年齢層が楽しんでいただいた。

エ. 平成26年度陶芸の森フォトコンテスト

＜募集期間＞5月1日（木）～10月31日（金）

＜応募者数＞37人（県外7人、県内30人（うち甲賀市内9人））

＜応募点数＞107点

＜審査員＞今井一郎（全日本写真連盟会員）

黄瀬三朗（日本石仏協会理事）

川口雄司（滋賀県陶芸の森理事長）

＜結果＞特選 岸 洋子 『キャンパス』

入選 北村正博 『天までとどけ』

中西裕子 『わたしもオブジェ』

井上富子 『センチメンタルな秋』

佳作 5人

＜表彰式＞11月24日（月・祝）

特選 賞状、賞金2万円

入選 賞状、賞金1万円

陶芸の森を素材としてフォトコンテストを行い、それをきっかけとして陶芸の森の四季折々の変化や豊かな自然に恵まれた公園の魅力を感じていただけるよう実施した。

オ. パスカルズ野外コンサート&こだわりマーケット in しがらきの開催誘致

<開催日> 4月27日 (日)

<主 催> 信楽自然育児サークル「なちゆるる・まま」

(来場者数：大人約300人、子ども約100人)

人気音楽グループ「パスカルズ」のコンサートと主催団体によるフリーマーケットの開催を誘致した。産業展示館屋外ステージおよび周辺広場を会場に、多数の方に来園いただいた。

(3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努めた。

貸出実績 6箇所 26作品

(4) 観光および集客促進のための広報活動

- ・陶芸の森、近代美術館、MIHO MUSEUM、佐川美術館4館によるスタンプラリー
- ・雑誌・フリーペーパーへの取材協力・読者プレゼントの提供
- ・Facebook・Twitterでの情報発信
- ・イナズマロックフェス2014(音楽イベント)での広報活動の実施

<実施日> 9月13日(土)・14日(日)

- ・節電クールライフキャンペーンへの参加

<実施期間> 7月23日(水)～8月29日(金)

節電広報チラシ持参で、無料で入館

- ・しらしがテレビ(びわこ放送) 10月26日(日) 放送
- ・エール!(びわこ放送) 11月10日(月) 放送
- ・きらっと滋賀(びわこ放送) 12月6日(土) 放送
- ・信楽高原鉄道ラッピング列車運行 1月15日(水)～
- ・県内7館広報等会議 2月27日(金)

(5) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、滞在アーティストや町内の陶芸家等に専門書など蔵書の一部を閲覧、貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図った。

3. 施設の管理

陶芸の森が、地域の産業振興や文化の創造、観光の拠点として、また来園者にくつろいでいただける場所となるよう、良好な状態を維持するよう心掛けた。今年度は園内マップをリニューアルし、より分かりやすい案内に努めた。

(1) 信楽産業展示館内の冷温水機の更新

信楽産業展示館(甲賀市執行)

(2) 公益財団法人滋賀県緑化推進会より花木の寄贈

ハナカイドウ40本、ボケの木20本の寄贈を受け、星の広場第1駐車場側法面へ植樹した。

4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

今年度の「陶芸の森やきもの振興基金」へは、1団体・13人の個人の方から合計143千円の寄付金をいただいた。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

陶芸館では産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすく紹介する展覧会を開催した。

(1) 特別企画展「信楽焼の美」／「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」

＜開催期間＞4月1日（火）～6月22日（日） 73日間

入館者：8,323人（1日平均114人）

- ・関連事業：オープンスタジオ・アーティストトーク&ワークショップ「ジュニア・リー～手びねりによる陶芸 イギリスの陶芸家」
4月13日（日）（参加者：86人）
ギャラリートーク
4月29日（火・祝）（参加者：5人）
5月4日（日）（参加者：15人）
6月22日（日）（参加者：11人）

UP cafe “現代イギリス陶芸展特別メニュー” ブリティッシュ・プレート他

ジェレミー・リーチのマグカップ・プレゼント 5人（応募者1,361人）

「信楽焼の美」展では、当館の収蔵品の中から古信楽の大壺や近年収蔵品に加わった信楽の代表的な薪窯作家の作品を紹介した。引き続いて「現代イギリスの陶芸—バーナード・リーチから若手作家まで」と題して、イギリス陶芸の巨匠バーナード・リーチからルーシー・リー、アリソン・ブリソンといった代表的な作家の他、陶芸の森で滞在制作した若手作家までを展覧し、イギリス陶芸を紹介した。

(2) 特別企画展「集まれ！奇想天外な“やきもの”たち」

＜開催期間＞6月29日（日）～9月28日（日） 78日間 *8/10は台風13号接近のため休館

入館者：9,978人（1日平均128人）

- ・関連事業：ギャラリートーク
7月20日（日）（参加者：20人）
8月17日（日）（参加者：15人）
9月21日（日）（参加者：15人）
- ・体験講座：夏休み子どもやきものシリーズ「奇想天外な○△□☆をつくろう！」
「くだものやさいの花入れをつくろう！」 7月19日（土）（参加者：12人）
「陶芸家の工房をたずねた後で、たぬきづくりだ！」 7月20日（日）（参加者：15人）
「ちぎって、はってつくる楽しい器！」 7月21日（月・祝）（参加者：32人）
「夏の思い出いっぱい小さな世界づくり！」 7月26日（土）（参加者：23人）
「2色の土で描く☆お皿をつくろう！」 7月27日（日）（参加者：31人）
「♪ロックなマイマグづくり！」 8月2日（土）（参加者：19人）
- ・奇想天外なお楽しみ企画「スマホdeわくわくゲーム」（参加者：1,165人）

*当選者A・B・C賞合わせて963人

時代や地域を超えて愛されてきた「やきもの」。その魅力は、かたち・色彩・模様・肌触りなど、豊かな表現力にあるといえよう。こうした特性は今日みられるような多様な「やきもの」文化を育み、人々にさまざまな〈たのしみ〉の美をもたらしてきた。本展では、私たちの好奇心を刺激する古今東西のユニークな「やきもの」を紹介した。

(3) 陶磁ネットワーク共同企画展・特別展「やきものって何ダ？—陶芸美術館8館の名品に学ぶ」

＜開催期間＞10月5日（日）～12月14日（日） 61日間 *10/13は台風19号接近のため休館

＜入館者数＞7,459人（1日平均122人）

＜関連事業＞ギャラリートーク 10月12日（日）（参加者：15人）

11月16日(日) (参加者:20人)
「食べて鑑る名品鑑賞塾」 11月2日(日) (参加者:18人)
体験講座「三大名産地の土を使って器をつくる」
11月30日(日) (参加者:25人)

ボランティアによる展示解説 延べ12人の入館者を案内

*解説研修会 10月7日(火)、10日(土)、15日(水)、16日(木) (対象者:4人)

各やきもの産地に所在し、やきものを専門に収蔵展示する美術館・博物館8館が総合的に連携するべく、平成20年に「陶磁ネットワーク会議」が設置された。それから5年を経た今、やきものの魅力を伝える共同企画展を開催した。本展では、各館一押しの名品を紹介するとともに、やきものがどのように作られ、どのように使われたのか、また何を表現しようとしてきたのかなどのテーマについて、8館の収蔵品を通じて紹介した。

(4)特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン展」

<開催期間>3月7日(土)～3月31日(火) (平成27年度へ継続事業)

<入館者数>8,562人(1日平均407人)21日間

<関連事業>信楽高原鐵道 信楽駅～貴生川駅間「マイキートレイン」運行

1月15日(木)～3月31日(火)

「レール&ミュージアム」共通チケット販売

2月1日(日)～3月31日(火)

ギャラリートーク 3月29日(日) (参加者:20人)

読み聞かせと音楽「夜のねこの冒険を音楽とともに…」

3月15日(日) (参加者:51人)

北欧のデザインで魅力的な動物作品で幅広い人気を得ている、リサ・ラーソン。彼女のデザインの源であり、戦後日本でも注目されたスウェーデンの陶芸の背景を振り返りながら、1950年代から現代までの作品や人気の「小さな動物園」、「アフリカ」などリサによる動物デザインシリーズやユニセフの「世界の子どもたち」シリーズなど。リサの陶芸デザインを集大成した日本で初めての本格的な回顧展を開催。

(5)巡回展企画事業「THE YUNOMI 湯呑茶碗展—ちょっと昔のやきもの日本縦断旅」

<巡回先>江別市セラミックアートセンター(北海道江別市野幌)

<開催期間>6月21日(土)～8月10日(日) (入館者:1,274人)

(6)陶磁ネットワーク会議への参加

<会場>福井県陶芸館

<開催日>1月13日(火)～14日(水)

<参加館>滋賀県立陶芸の森陶芸館、愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、福井県陶芸館、兵庫陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館

(7)収蔵品収集(管理)事業

収蔵品(収蔵庫)の点検整理作業を実施し、作品の点検と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の点検・整備も行った。

(8)陶芸館ギャラリー企画展

ア. シリーズ湖国の陶芸家 松本治幸 — 無題 —

<開催期間>8月28日(木)～9月28日(日)

・関連事業: オープニング&アーティスト・トーク 8月28日(木) (参加者:20人)

イ. 「子どもたちの土の造形—本物との出会いから I

「ミシガン大学×小原小学校のこどもたち～コミュニケーションを楽しみながら作品制作」

＜開催期間＞6月29日（日）～7月27日（日）

1学期の授業展示作品47点。（甲賀市立小原小学校とミシガン大学の学生作品）

・「子どもたちの土の造形一本物との出会いからⅡ」

＜開催期間＞7月29日（火）～8月24日（日）

1学期に行われたインクルーシブ教育プログラムの展示作品50点。

（甲賀市立雲井小学校など計6校）

ウ. 「信楽焼—継承される伝統の技」ビデオ上映（平成25年度から継続）

＜開催期間＞4月1日（火）～6月22日（日）

昨年度制作した重ね掛けや松皮、細工物をテーマに信楽焼の伝統技術を紹介するビデオを上映し、信楽焼への理解を深めるとともに普及啓発に努めた。

(9) 特別鑑賞塾

＜開催日＞第15回：7月4日（金）（参加者：5人）

7月6日（日）（参加者：5人）

陶芸館において、学芸員による解説を聞きながら、収蔵品などを手に取って鑑賞し、作品をより身近に感じてもらい、また技法や作者に近づける取り組みとして、有料で開催した。

(10) 博物館実習

＜期間＞8月19日（火）～8月22日（金）（実習生：3人）

(11) マイヤーガーデンプロジェクト滋賀

・滋賀特別展「Splendor of Shiga-Treasure from Japan」に協力、陶芸館収蔵品16点を出品

＜開催期間＞平成27年1月30日（金）～8月16日（土）

・マイヤーガーデン内の茶室用の茶道具を滋賀県作家の作品を中心にコーディネート協力

・公募展「マイヤー×信楽大賞 日本陶芸の今—伝統と革新」の作品公募実施

応募総数：285件

滋賀県とミシガン州との姉妹友好交流を土台とし、米国における滋賀の魅力を発信、県内産業の海外展開・観光交流の推進などを目的として、ミシガン州のフレデリック・マイヤーガーデンズ&スカulptチャー・パークで行われる一連のプロジェクト事業のうち、滋賀特別展および日本庭園内の茶室コーディネート等に協力している。なお当プロジェクトについては、県観光交流局を主管とし、モノづくり振興課、文化財保護課、文化振興課および陶芸の森、近代美術館、琵琶湖文化館からなる実行委員会が組織されている。

(12) 子ども事業と連動した陶芸館入館もう一回券「つちっこプログラム 陶芸館に行こう！」の回収

＜回収期間＞4月1日（火）～3月31日（火）（回収数：85枚、随行者の数215人）

2. 創作事業

やきものの産地である信楽でレジデンス事業をおこなっているメリットを最大限に、そして双方向に活かし、やきものの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるよう努めた。

(1) アーティスト・イン・レジデンス事業

ア. スタジオ・アーティストの参加 延べ 50人

リサ・セシル(アメリカ 4/1-4/25)、河邊ありさ(4/1-4/30)、アン・バニック(デンマーク 4/1-4/30)、村山まりあ(4/1-5/16 1/6-3/31 H27継続)、エレナ・ギレヴァ(ロシア 4/1-6/30)、高橋由紀子(4/1-5/31)、チェン・ユーウェン(台湾 4/1-7/4)、松元久子(4/1-10/31)、永井文子(4/15-6/15)、菊本有花(4/15-9/4)、パトリシア・スジマニ(イタリア 4/22-6/27)、セルジ

ユ・ドス・サントス(フランス 5/1-5/31)、ヴェラ・ヴィセント(カナダ 5/1-6/30)、リサ・ストックハム(イギリス 5/20-8/10)、セシャ・ラジェン・ラディ(オーストラリア 5/22-7/19)、オギハラ・マリ(アメリカ 5/22-7/22)、ジョセフ・シヴィリィ(アメリカ 6/3-8/26)、井掛紗百合(6/8-3/31 H27継続)、陳加峯(台湾 7/1-8/27)、アシュリー・ハワード(イギリス 7/1-8/29)、ニコラス・オウ(アメリカ 7/1-9/30)、黄偉茜(台湾 7/4-8/27)、ララ・デグリフ(オランダ 7/15-8/31)、谷澤紗和子(7/25-8/31)、澤清嗣(8/15-12/25)、吳永思(香港 8/27-10/15)、ギユウム・タルビ(フランス 9/2-10/3)、ステファニー・クエール(イギリス 9/2-10/31)、高于晶(韓国 9/2-11/8)、施佩宜(台湾 9/2-11/9)、グレン・ルイーズ(カナダ 9/3-12/3)、吉田達彦(9/5-10/20)、胡慧琴(台湾 9/5-11/5)、スーザン・マウフェ(イギリス 10/1-12/13)、阮素玲(香港 10/26-3/20)、ジュリー・ヨーク(カナダ 10/31-12/4)、ロバート・ラファエル(アメリカ 10/31-12/4)、後藤あこ(11/1-3/7)、宮岡貴泉(11/18-2/16)、ルイザ・バロソ(ブラジル 12/2-12/28)、植田麻由(12/11-3/31 H27継続)、ミンテア・マクダニエル(カナダ 1/8-3/7)、ケビン・ユウ(アメリカ 1/8-3/31)、張凌云(中国 1/10-2/12)、張一楊(中国 1/20-3/31 H27継続)、鍾雯婷(日本在住 2/7-3/31 H27継続)、山本彩(2/14-3/31)、キャロライン・バルベ(フランス 2/17-3/17)、浜名一憲(2/21-3/31)

日本在住 17人、アメリカ 6人、台湾 5人、カナダ 4人、イギリス 4人、フランス 3人、香港 2人、中華人民共和国 2人、デンマーク 1人、ロシア 1人、イタリア 1人、オーストラリア 1人、オランダ 1人、韓国 1人、ブラジル 1人

イ. ゲスト・アーティストの招聘 計 6人

- ・ジュニファー・リー(4月1日～5月1日 3月13日～31日・平成27年度～継続)
複数の種類の土を混ぜ込んでの「うつわ」の制作をおこなっている。
- ・松井紫朗(日本)(5月28日～3月31日)
モノの内側と外側の概念が同化するような壺と硯状のオブジェを制作した。
- ・町田桂子(フランス在住)(11月4日～1月18日)
男性と女性などの異なる要素が混在するイメージの人物や動物像を複数制作した。
- ・禹 寛壕(韓国)(8月1日～8月21日 1月6日～2月25日)
狸の置物や人形の頭部を原型にしたオブジェの制作を行った。
- ・桑田卓郎(日本)(1月10日～3月31日)
大型のオブジェを複数制作した。
- ・西田泰代(チェコ在住)(2月23日～3月31日、平成27年度～継続予定)
磁器による器を制作した。

ウ 国内外の機関との連携強化等

- ・京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽
＜開催日＞7月4日(金)～6日(日) (参加者:通信学部3年次生7人)
手びねりによる、30～40cm程度の伝統的な花瓶などの制作および町内見学を組み合わせて行った。

(2)信楽産地振興

ア. 情報閲覧室とやきもの相談員の活用

情報閲覧室の資料については、25周年事業のための資料整理とあわせて、過去に滞在したアーティストのデータ整理を行った。情報閲覧室の資料を使用し、来館した作家の新たな制作の際の打合わせや指導等に活用した。また、窯の焼成や釉薬について信楽に根付く技術のアドバイスをやきもの相談員から得、技術力の向上に努めた。

イ. 信楽焼の担い手たちとの交流

スタジオ滞在中のアーティストを連れて、信楽町内の陶芸家の工房やメーカー工場等へ見学に行き、積極的に地域の産業後継者と交流した。

3回実施 訪問先：10箇所

丸滋製陶工場、みはる窯工房、丸倍製陶工場、卯山窯工場、ヤマタテ陶器工場跡、(株)三彩、畑長石鋳業所、(有)壺新、(株)松庄、奥田英山邸

ウ. 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会

「創作研修館オープン・スタジオ」の日を設け、スタジオを一般に公開し、滞在作家や職員によるレクチャーやワークショップを行って産地後継者とアーティストの交流を図った。

・第1回オープン・スタジオ

「ジェニファー・リー〜手びねりによる陶芸〜

イギリスの陶芸家 ジェニファー・リーが語る作品とその展開

<開催日>4月13日(日) (参加者：86人)

ゲスト・アーティストで、陶芸館特別企画展「現代イギリスの陶芸〜バーナード・リーチから若手作家まで」出品作家である、ジェニファー・リーによるアーティスト・トークとワークショップを中心に開催した。

・第2回オープン・スタジオ

<開催日>6月15日(日) (参加者：40人)

ゲスト・アーティスト長澤和仁と松井紫朗のアーティスト・トークを中心に行った。

「記憶」：長澤和仁(陶芸家)

自身の制作と陶芸の森での制作について語った。

「陶芸の森での制作について」：松井紫朗(彫刻家・京都市立芸術大学教授)

自身の制作と今後陶芸の森で予定している制作の概要を語った。

・第3回オープン・スタジオ

<開催日>7月6日(日) (参加者：13人)

アーティスト・トーク：ジョセフ・シヴリィ(スタジオ・アーティスト)

自身の制作の概要や他国のレジデンス施設で行った制作について語った。

・第4回オープン・スタジオ

「写真家の視点〜フランク・ロイド・ライトの建築から金子潤のやきものまで〜」

<講師>畠山 崇(写真家)

<開催日>11月16日(日) (参加者：20人)

関西在住のベテラン写真家、畠山氏による講演会を開催した。ベテラン写真家が考える作家のありよう、またライフワークとして写真を撮り続けている金子潤の近作についてのレクチャーを行った。

・第5回オープン・スタジオ

<開催日>1月10日(土) (参加者：15人)

創作研修館のスタジオ見学

・第6回オープン・スタジオ

「韓国の現代陶芸」

<講師>禹 寛壕(韓国 弘益大学教授)

<開催日>1月17日(土) (参加者：20人)

韓国陶芸と日本陶芸との相違点やアジア内での韓国陶芸の立ち位置についてレクチャーを行った。

・第7回オープン・スタジオ

ミニ・シンポジウム「中華人民共和国の陶芸事情」

<講師>張凌云(景德鎮陶磁学院講師)、張一楊(中国美術学院)、石山哲也

<開催日>2月1日(日) (参加者:30人)

スタジオ・アーティスト経験者の中で中国に滞在経験のある人物を中心に中国陶芸の現状についてお話いただいた。内容は張凌云氏が景德鎮の陶芸事情、張一楊氏が中国美術学院の講師陣の作品、石山氏が中国を訪問時の中国陶芸の印象についてレクチャーした後中国の現状について討議した。

・講演会「備前焼 その伝統と創造」の開催

<講師>伊勢崎淳(国指定重要無形文化財備前焼保持者、日本工芸会正会員)

<開催日>3月7日(土) (参加者:40人)

<主催>公益財団法人秀明文化財団

<協力>公益財団法人滋賀県陶芸の森

公益財団法人秀明文化財団の信楽の伝統陶芸作家に対する育成協力事業に協力し講演会を開催した。

・第8回オープン・スタジオ

「チェコの陶芸 ー歴史から現在までそして私たちの制作・活動についてー」

<講師>西田泰代、ヴラディミール・グロフ

<開催日>3月8日(日) (参加者:30人)

チェコの「スタジオ・ポーセリン」で制作を行う、西田泰代氏・ヴラディミール・グロフ氏にチェコ陶芸の歴史と現状についてのレクチャーを行った。

・アーティストによる展覧会活動等

今年度下半期より創作研修館ギャラリーの整備を行い、スタジオ・アーティストが修了時に展覧会を行える環境を整えた。

4月 河邊ありさ展(創作研修館スタジオ前ギャラリー)

村山まりあ展(創作研修館スタジオ前ギャラリー)

6月 チェン・ユーウェン(カフェ・ギャラリーAWAISA)

7月 オギハラ・マリ「DAYSLEEPER」展(創作研修館ギャラリー)

8月 陳加峯展(創作研修館ギャラリー)

黄偉茜展(創作研修館サロン前庭園)

ジョセフ・シヴィリィ作品展(太陽の広場)

9月 菊本有花(カフェ・ギャラリーAWAISA)

10月 吉田達彦展(名古屋市民ギャラリー矢田/愛知県)

松元久子 個展(ArchitectS Office Gallery/東京)

11月 高于晶・施佩宜・胡慧琴 三人展(創作研修館ギャラリー)

ステファニー・クエール「Stephanie Quayle 展」(POST Gallery/東京)

松元久子 個展「いきているふくー妄執ー」

(Fuma Contemporary Tokyo|Bunkyo Art/東京)

12月 グレン・ルイーズ展(創作研修館ギャラリー)

スーザン・マウフェ展(創作研修館ギャラリー)

井掛紗百合「NEXT VISION-視線の先-」(FACILE jewelry/京都)

2月 後藤あこ「連茎する現代アート」(名古屋市芸術創造センター/愛知県)

3月 阮素玲展(創作研修館ギャラリー)

その他過去に滞在したスタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティスト等の活躍について

- ・日本伝統工芸会近畿支部展入選
- ・日本陶磁協会賞受賞
- ・秀明文化賞受賞

3. 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行った。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげるよう努めた。

(1)「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」

連携授業	102件	(参加者：6,319人)
来園プログラム	8件	(参加者：744人)
ねんどと遊ぶ	5回	(参加者：326人)
世界にひとつの宝物づくり事業「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」	111回	(参加者：3,582人)
(滋賀次世代文化芸術センター 協力者数 延べ 360人)		

(2)夏季研修会ー美術館との総合的学習のあり方を探る

「美術館からの発信 “なぜなに、その違い？六古窯”

第1日目 8月4日(月) MIHO MUSEUM (参加者：18人)

第2日目 8月7日(木) 陶芸の森 (参加者：21人)

(3)連携授業および世界にひとつの宝物づくり展の成果展開催 (再掲)

- ・「子どもたちの土の造形ー本物との出会いからⅠ」

ミシガン大学×小原小学校のこどもたち～コミュニケーションを楽しみながら作品制作

<開催日> 6月29日(日)～7月27日(日) 陶芸館ギャラリー

1学期の授業展示作品47点。(甲賀市立小原小学校とミシガン大学の学生作品)

- ・「子どもたちの土の造形ー本物との出会いからⅡ」

<開催日> 7月29日(火)～8月24日(日) 陶芸館ギャラリー

1学期に行われたインクルーシブ教育プログラムの展示作品50点。

(甲賀市立雲井小学校など計6校)

第3 産業の振興に関する事業

陶芸の森では、信楽焼の伝統技術を将来に継承するための人材育成事業、およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示をもって信楽陶器産業の振興事業を行った。

1. 信楽産業展示館の活用

(1)信楽産業展示館での展示

ア.「やきものによる動物たち」展の開催

<開催期間> 4月1日(火)～10月5日(日)

コンペティション「やきものによる動物のインテリア製品」の応募の参考になるような動物のインテリア製品、作品を展示紹介しデザイン啓発の一環とした。

イ.「やきものによる動物のインテリア製品」入賞等作品の展示

<展示期間> 3月6日(金)～3月31日(火)

コンペティションの入賞、入選作品について展示・紹介しデザインの啓発に努めた。

(2) 陶器まつりでの産業展示館のブース展示

<展示期間>10月11日(土)～11月9日(日)

<展示品>高間智子デザイン 洗面鉢

平成25年度に試作した加飾デザイン作品の展示を行った。

2. 人材育成事業

(1) 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校は、平成26年度に総合学科へ再編が行われたことで、従来からの共同事業をさらに強化し、各学年に応じた授業を陶芸の森で行い、信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携し、地域での人材育成に努めた。

ア. 信楽高等学校デザイン科外部研修受入れ

<実施日>絵付け実習 5月16日(金) (参加者:3年生25人)

窯出し、講評、陶芸館見学 5月30日(金)

「つくられるものの公共性に対する認識」と「個人の自由な表現」の両立という、デザインにおけるバランス感覚を養うため、信楽高等学校デザイン科を対象に陶芸の森にて大原薫氏の指導のもと、信楽の産業製品である陶製のガーデンセットに加飾をした。

その後乾燥、施釉、焼成を経て窯出し後、創作研修課職員による講評を行い、絵付けの椅子は甲賀市立の各図書館に寄贈した。

イ. 野焼き体験実習

<実施日>10月21日(火) (参加者:1年生69人)

授業で制作した作品を陶芸の森で野焼きした。

ウ. 登り窯で焼成する伝統的なやきものの制作

<実施日>10月21日(火) (参加者:2年生22人)

登り窯で焼成することを前提に、伝統的な信楽焼きの製品である花活と茶碗を、信楽の陶芸家(西尾瑞舟、古谷剛敏)の指導のもと制作した。

エ. 登り窯焼成実習

<実施日>12月12日(金) (参加者:2年生23人)

10月21日に制作した作品を登り窯で焼成した。

3. デザイン活性化事業

(1) コンペティション「やきものによる動物のインテリア製品」の実施

<募集期間>5月1日(木)～12月28日(日)

<応募者数>45人

<応募点数>75点

<結果>金賞 倉知栞里 『Hold a Hedgehog』

銀賞 赤木三枝子 『はりねずみ花器』

銅賞 谷村仁美 『砂漠の旅』

入選 12人

<表彰式>3月7日(土)

金賞 賞状、賞金15万円

銀賞 賞状、賞金5万円

銅賞 賞状、賞金3万円

陶芸館で開催している、特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン展」。

ラーソンは、スタイリッシュで用を第一に考える北欧デザインの品々とは異なり、1950年代中頃から「LILLA-ZOO - 小さな動物園」シリーズを制作してきた。

ここ信楽もタヌキをはじめとする動物のインテリア、エクステリア商品を長年にわたりつくってきた経緯があり、このコンペティション「やきものによる動物のインテリア製品」では、これからのインテリアとして生産できるような「楽しくてモダンな」インテリアとなる動物をかたちどった商品のモデルとなる作品を募集した。

(2) 既存製品への加飾によるデザイン提案

信楽透土による照明器具を取り上げ、デザインを信楽町内在住の陶芸家である織田阿奴に依頼し、新しい感覚の試作品ができあがった。平成27年度に産業展示館で展示を行い、業界へのデザイン提案の一環とした。

(3) 海外の陶磁器デザイナーによるデザイン提案のロイヤリティーの管理

過去にフィンランドのデザイナーにデザインを委託したものを商品化し、生産に結び付けたものについて、そのロイヤリティーの管理に努めた。

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行った。また併せてインターネットの活用したオンラインショップでの商品提供や販売促進に努めた。

2. その他

(1) 自動販売機の設置

人々が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供した。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供した。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供した。